

## 甲府事業場にて医療用フィルムの新工場竣工

コニカは、アジアを中心とする海外における医療用X線フィルムおよび先進国におけるデジタル画像記録用フィルムの需要増加を見込み、新工場建設を昨年1月より甲府事業場にて進めてきました。2001年11月末にほぼ完成した後、試運転を重ね、2002年4月、竣工式を開催しました。

医療用フィルム市場においては、中国などアジア諸国における経済回復に伴い医療環境の整備が加速し、X線フィルムの需要増が見込まれています。医療用分野での診断画像のデジ



タル化が加速する日・米・欧においては、高精度なデジタル画像を入出力するための当社のシステムが高い評価を得ており、それに使用されるデジタル画像記録用フィルムの成長が見込まれます。

甲府事業場の新工場立ち上げにより、医療用フィルムの中長期的需要増に対応していきます。



## コニカグラフィックイメージング株式会社発足

2002年4月1日、コニカは新会社「コニカグラフィックイメージング株式会社」を発足させ、国内における開発と生産を除くすべてのグラフィックイメージング機能を統合しました。主な事業内容は、印刷製版用機材の販売、印刷製版向けソリューションサービスの開発・販売およびその他の関連事業です。

コニカは急速にデジタル化が進む印刷市場において得意とするフィルム・ブルーフ分野に特化してまいりました。新会社設立により、高い評価をいただいているカラープルーフシステムおよびその出力をサポートするワークフローステーションはもとより、お客様のご要望に合わせたシステムのカスタマイズなど、より最適なソリューションをご提供してまいります。

## 東京事業場でゼロエミッション(\*)達成

コニカグループでは「2003年度までに国内全生産工場でゼロエミッション達成」という目標を掲げています。ゼロエミッションについては、単に再資源化率の向上・最終処分率の低下だけでなく、経済性を重視した排出物の削減を進めています。2001年度には7カ所の生産工場でゼロエミッションを達成しました。

2002年2月、コニカの東京事業場・日野ではフィルムの生産端材からベース用プラスチックを再生していることが大きく貢献し、また同事業場・八王子は部課単位で廃棄物管理を行い、廃棄物に対するコスト意識を社員全員に浸透させることにより、「ごみゼロ工場」を達成しました。

\*コニカのゼロエミッションの定義: 再資源化率90%以上、最終処分率5%以下、1998年度外部支払費用10%以下の条件を満たしていること。

## 小田原事業場がエネルギー管理優良工場表彰を受賞

コニカ小田原事業場は2002年2月、関東経済産業局主催による「平成

13年度エネルギー管理優良工場等の関東経済産業局長表彰(電気部門)」を受賞しました。

「エネルギー管理優良工場等の関東経済産業局長表彰」は、省エネルギー月間行事の一環として、エネルギー管理の推進に努力して成果を収め、他の模範となる工場または事業場に対し、その功績を称えるための表彰制度です。

小田原事業場は、エネルギー原単位を毎年1%以上削減し続け、5年間の通算で10%減少させ、省エネ法で義務づけられている毎年1%を上回る実績を達成したことが評価されました。



## 小田原事業場が日本水大賞奨励賞受賞(\*)

コニカ小田原事業場は、日本水大賞顕彰制度委員会から日本水大賞奨励賞を授与されました。

小田原事業場は、これまで廃熱回収、コジェネ導入、代替エネルギー活用等の多面的な省エネ推進活動を通して、二酸化炭素の排出削減に努めてきました。今般、地球環境保全活動をより総合的に展開するため、水資源に着目し、その節減、回収、再利用に取り組み、大きな成果をあげてきました。ターボ冷凍機、ディーゼルエンジン周辺機、ディーゼルエンジン周辺機器の冷却水を不要にしたことは、節水のみならず大きな省エネ効果を伴っています。

事業場をあげてのこうした多面的な取り組みが評価され、今回の受賞に至りました。

\*日本水大賞顕彰制度(主催:日本水大賞顕彰制度委員会)は、水循環系の健全化に寄与することを目的に、1998年6月に創設された制度です。

## ニューイヤー駅伝2連覇

コニカ陸上競技部(監督 酒井勝充)は2002年元旦に行われた、日本実業団陸上競技連合主催による「ニューイヤー駅伝 第46回 全日本実業団対抗駅伝競走大会」において、昨年に続き、優勝しました。

当社陸上競技部の本大会への出場は17年連続の27回を数え、優勝は昨年に続き2回目です。本大会で連覇を成し遂げたチームは過去に4チームしかありません。

監督の酒井は「日頃から、選手には『追われる立場ではなく、チャレン

ジャーであれ』と伝えていました。昨年の初優勝後、『目標はニューイヤー駅伝3連覇』を公言したのもそのためです。今年はマラソンへのチャレンジを本格的に始動し、世界と戦えるよう、さらにレベルアップを図ります」と語っていました。

## ワイナイナ選手が 東京国際マラソン優勝

コニカ株式会社陸上競技部所属のエリック・ワイナイナ選手は、2月10日に行われた「2002 東京国際マラソン」(主催:財団法人日本陸上競技連

盟、読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社)で、2時間8分43秒の自己新記録を樹立し、優勝しました。

1993年19歳の時にケニア国より来日し、当社に入社したワイナイナ選手は、1996年アトランタオリンピック男子マラソンで銅メダル、2000年シドニー



オリンピックでは、銀メダル受賞と、輝かしい戦績を収めてきました。

大会当日、スタート時の東京は摂氏約2度という悪条件でしたが、ワイナイナ選手は終始、先頭集団の中で好位置をキープし、自己最高記録のタイムでゴールインをしました。

ワイナイナ選手の次の大きな目標のひとつは、2004年に開催されるアテネオリンピック出場です。オリンピックで「金メダル」を手中に収めるまでワイナイナ選手の挑戦は続きます。

ニューイヤー駅伝  
第46回 全日本実業団対抗駅伝競走大会  
主催 日本実業団陸上競技連合



## コニカカラーCENTURIA SUPERシリーズ新発売

コニカは、新開発のISO感度1600<sup>(\*)1</sup>をはじめとするネガカラーフィルムの新ラインアップ『コニカカラーCENTURIA SUPERシリーズ』を3月4日、新発売しました。

『CENTURIA SUPERシリーズ』は、ISO100、200、400、800、1600の5つの感度を揃えているため、多彩なシーンや用途に合わせ最適なフィルムが選べます。

シリーズすべてに最先端の乳剤加工技術を採用し、高感度フィルムへの影響が大きい自然放射線耐性を向上させ、また『CENTURIA』シリーズで定評をいただいている美しい肌色描写性能や階調性などにさらに磨きをかけました。



## 撮りっきりコニカ MiNi Goody BEST フラッシュ付(27枚撮り／ 40枚撮り)新発売

コニカは、ISO感度1600<sup>(\*)1</sup>を内蔵した『撮りっきりコニカ MiNi Goody BEST フラッシュ付(27枚撮り／40枚撮り)』を3月4日に新発売しました。

日中の撮影はもちろん、従来のレンズ付フィルムでは難しかった、観光地などのイルミネーションを背景にしたシーンも鮮やかに写し出す『撮りっきりコニカ MiNi Goody BEST』は、手軽に本格的な写真を撮ることが可能なレンズ付フィルムとしてお客様に愛用していただけます。

\*<sup>1</sup> 海外旅行の際は、機内持ち込みとし、係員の手検査を受けて下さい。X線検査で、カブリなどの影響が出る場合があります。



## Konica Sitios 7085新発売

「Konica Sitios 7085HV/7085」は、高速・高生産性・高機能を誇る「NetPro」<sup>(\*)2</sup>シリーズの代表格で、業界トップレベルの高速デジタルマシンです。2002年1月30日に発売されたこれら2機種では、毎分の出力85枚(A4ヨコ)を実現。またトナーは、次世代のデジタルトナーであるコニカ独自開発の「重合法トナー」を採用しています。「重合法トナー」は、粒の形状を精緻で均一にすることで、画質の飛躍的な向上とさらなるコストダウンを可能にしています。

\*<sup>2</sup> 「NetPro」とは、コニカが2001年9月に発売した「Konica Sitios 7165」より採用しているデジタルマシンのコンセプト「NetPro (network document processor)」を意味しています。

